

連珠っておもしろい

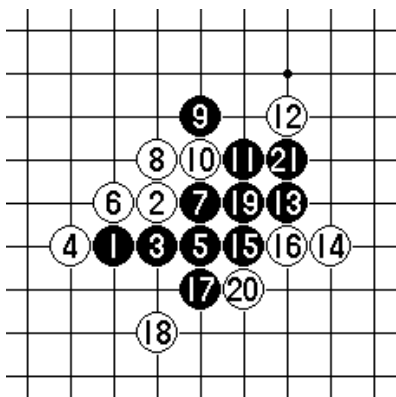
九段 河村典彦

● 第83回 ●

■ 雲月白4の変化

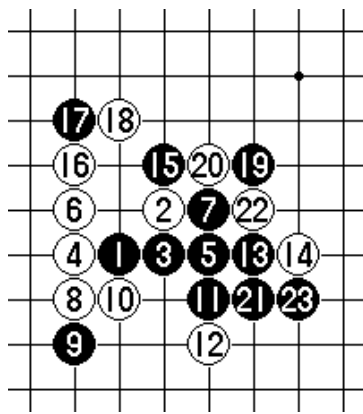
■ 雲月白4の変化
昨年、四珠交替が打たれ始め、ますます珠型ごとの研究が盛んになってきた。彗星や長星などの難珠型で白4を緩めるタイプとともに、桂馬の珠型（名月や山月など）や簡易珠型も上限が八題なので見直されてきている。これからますます白4ごとの研究が必要なのは間違いないだろう。

そんな中、今回は雲月の研究をしてみた。雲月・雨月は題数指定打ちでも注目されたが、四珠交替でも魅力あることには変わりがない。実は今回研究した白4は、以前珠友に掲載したことがある。第26回（珠友266号）に書いていたが、その時書いていなかった黒5について研究してみた。



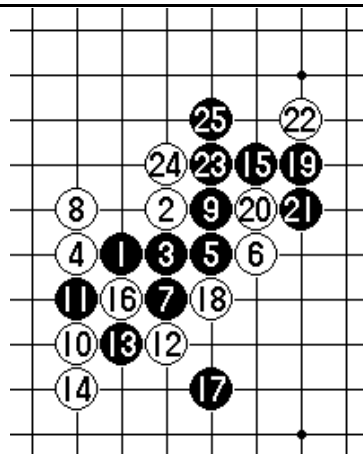
黒5は単純な手なのだが、なぜか今まであまり現れてこなかった。この手に対し怖いのは、まずは白6だろう。この手には当然黒7と組むのが対抗の一手だ。白8で防ぎに行くのももう無理そうなので、白8と引くが、これには黒9から追い勝ちとなる。

もっと怖いのが次の白6だろう。同じように黒7と組むのだが、白8と引けるのが黒にとって不気味となる。しかしこれも、黒9で先手を取れるので、黒11と引いてこれも追い勝ちとなる。



今回この黒5を思いついたのは、白6で10に防ぐと黒勝ちの研究に戻る（恒星桂馬防ぎ、もしくは雲月雨月桂馬防ぎ）ことがベースとなつている。一つ勝ちを調べると、その派生でいろんなことかわかつてくるという好例だろう。

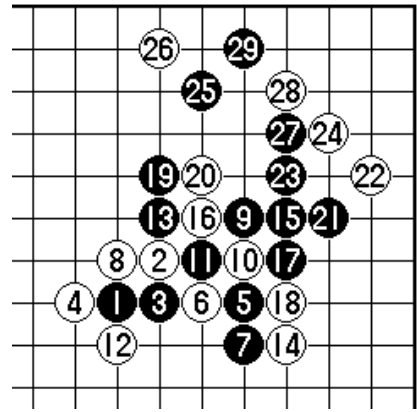
黒7と打たれたからではもう手遅れのようなので、白6で先に防ぎに行くのが考えられる。防ぐとしたら次図の白6と剣先を叩く手だろう。この手にはもう一つの好点である黒7と打つのがいいだろう。白8を13ならすぐに追い勝ちがある。



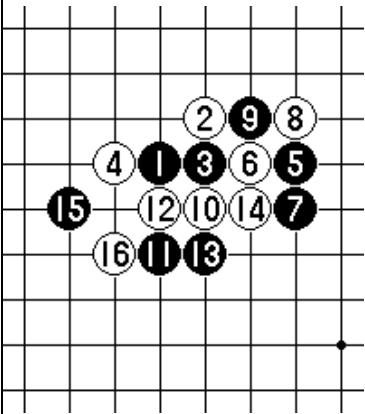
そこで白8と固まるのが白の強防で、黒はここで一旦9と組むのがやはり好点となる。白10、12がトリッキ一な防ぎだが、落ち着いて黒13から17と止めておけばよい。

結局、この黒5は黒有利な着手として考えられ、有力な五珠の候補となる。であれば、黒5を一路右に打つても同じように黒有利ではないか？と思うのは当然の成り行きだろう。次に、一路右の黒5について調べてみよう。
二月例会で小磯さんと打つたのだが、黒5を六題と

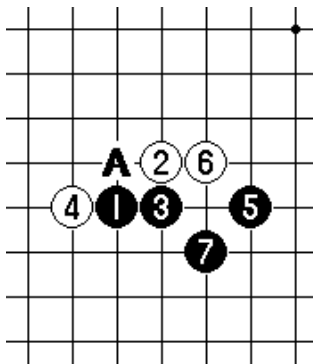
しても黒を取られた。



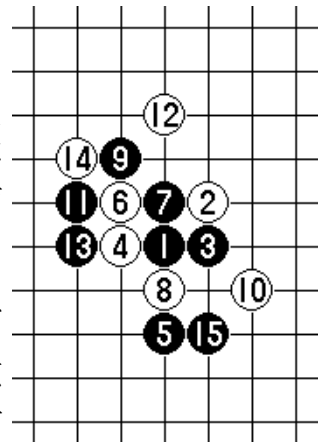
白6は仕方がないと思ったが、黒7に対して白8と打つと追い勝ちがありそうだ。黒13と引けるのが大きく、黒15と押さえて17と打つのが良くある筋だ。



押さえるしかない。交換に黒9と押さえることで、黒有利を保つことができる。以下白16まで進めば、黒有利の分かれだろう。また、白6で次のように防ぐ手もあるが（この手は前回の研究で示している）、黒7でもAでも黒が良いだろう。

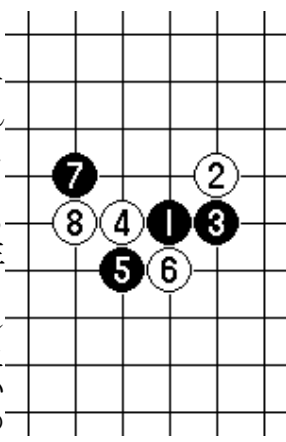


この2つが黒有利とすると、かなり五珠の候補が発生することになる。あともう少し頑張れば上限の八題も見えてくる。頑張って探すことにしよう。候補に挙がるのが、次の五珠だ。白は6で松月に戻すのもありそうだが、それでは面白くない。



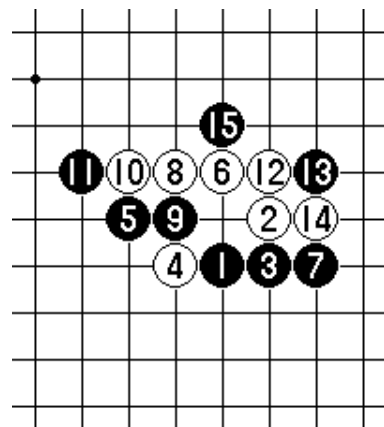
白6には黒7とトビ三で打てるのがこの黒5の良い所だろう。黒9から11と押さえ、以下互角の戦いになる。

次図の黒5は混戦志向だ。花月からなども現れるが、黒7と叩いても展開が見えない。ただし、すぐに負けるという訳ではないので、五珠候補としてはあるだろう。

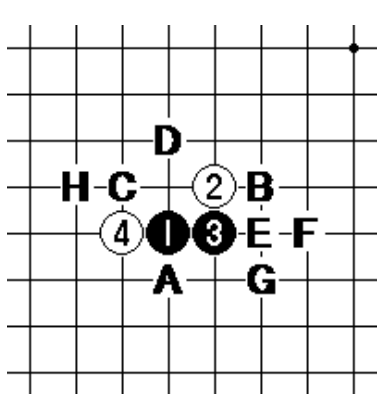


それよりも注目したいのが、次の黒5だ。もちろん

溪峡月からヒントを得たものだが、見慣れない五珠なので、相手の時間を短くする効果はあるだろう。



結論として、次図の8か所を候補としたい。



今年の名人戦ではどんな五珠が打たれるだろうか？